



Climbing Victory Mountain School Museum

勝山市国際交流員 デビット・ティアニー

9月から国際交流員の仕事を通して市内にある小学校、保育園、幼稚園にお邪魔してもらっています。授業では元気な生徒たちとアメリカの話をしたり、英語を交えたゲームをしたり、また英語の歌を歌ったりして楽しい経験ばかりです。休み時間には外でサッカーをしたり、体育館でドッジボールや鬼ごっこをしたりして、スポーツや遊びを通して生徒たちと交流しています。こうして勝山の元気な子どもたちからたくさんのエネルギーをもらっています。

どの学校を訪問しても気付くことは、校内にたくさんの詩や絵、工作が飾られ展示されていることです。まるで学校全体が美術館のようです。時間が空いた時にこれらの作品を見て回るのがすごく楽しく、落ち着くひと時です。みんなの作品はとても個性的で自由です。一人で爆笑してしまうくらい傑作な詩もあれば、額に入れて家に持って帰って飾りたいと

思った絵もありました。

昔の私なら「子どもの描く絵なんて大したことないなあ」と思ったに違いありませんが、今はそうゆう風に思えません。自由に描いている。リラックスして描いている。見たものをありのままにキャンパスに描き残している。作品を見ていると子どもたちの自由な心と正直な気持ちが伝わってきて私をいい気分にしてくれます。

私も小学校の頃は図工が大好きで、よく絵の具で絵を描き、工作もたくさんしました。秋には学校で写生教室があり、必ず金賞が取れるように神経をとがらせて紅葉の山の絵を描いていました。今振り返ると、「どうしてもっと楽しみながら気楽に絵を描けなかったのかなー」と、子どもたちの絵を見ながら少し心残りに思っています。



市民対話集会

スキージャム勝山や市政全般について対話

11月29日、教育会館において市民対話集会が開催されました。

今回の集会は、先般、東急不動産(株)から市に対して、減損会計処理にとめない、市が一部出資する勝山高原開発(株)へ、スキージャム勝山の資産譲渡を行いたいという提案を受けて、提案内容と、それに対する市の対応や考え方を市民のみなさんに説明し、ご意見を聞くために開催されたもので、当日は約80名の参加者のもと、市長および担当課からくわしい説明をさせていただきました。

参加した市民からは、昨年度の欠損額の規模や今後の利用客数の見込みについての質問、有料道路を無料にできないかなどの活発な意見が出ました。

また、「市政全般について」の中で、勝山ニューホテルについて山岸市長は、「奥越に無くてはならないホテルであり、今後2億円程度をかけて10年以上は使える施設にしたい」と述べました。これに対して、市民からは、将来的にホテルに採算性が出てきたときに売却する可能性についての意見が出されていました。



次回 と き 平成18年2月28日(火)午後7時
市民対話集会 ところ 教育会館 ホール
テーマ 「市民とともにまちづくり」について
—まちづくり交付金事業—

問 未来創造課(☎内線232)

「地域」が支える福祉の大切さ学ぶ

勝山市地域福祉計画策定関連事業
「地域福祉を考える集い」
地域の福祉の実状と課題を踏まえ、自分たちの地域にふさわしい福祉社会とは何かを考える「地域福祉を考える集い」が、11月19日、福祉健康センター「すこやか」を会場に開催され、参加した約120名の市民からは、地域が支える福祉のたいせつさをあらためて学びました。
この日は、活動事例発表やパネルディスカッションなどが行われ、活動事例発表では、地域での福祉活動を活発に進める4グループの代表者が、活動の様子をスライドなどを使って発表しました。発表者の1人、「長山町ボランティアの会」女性部代表の松村信子さんは、「高齢者と地域住民が互いの近況などを語り、支え合うことで地域の輪が広がる」と、活動の意義を話されました。このほ

か、猪野瀬地区社協コーディネーターの今井倫子さん、NPO法人福祉ワークینگグループ大野の中村真理子さん、福井市みのり地区社協の小林きよ子さんらが、活動内容や活動を通じての思いをそれぞれ発表されました。
また、活動事例発表者らに山岸市長を加えて行われたパネルディスカッションでは、県立大学助教授の瓦井昇氏をコーディネーターに、活動事例発表を踏まえながら、これからの地域福祉のあり方を真剣に話し合いました。



地域福祉を考えるパネルディスカッション

ふるさと勝山に寄せる熱い思い “東京勝山会”、“関西勝山会”の 総会が盛大に開催



東京勝山会総会
であいさつをする
山岸市長

ふるさとの話で盛り上がる関西勝山会総会の様子

関東に在住する勝山市出身者でつくる「東京勝山会」の総会が11月10日、東京都内のアルカディア市ヶ谷(私学会館)で盛大に開催されました。

約120名の会員が出席した当日は、山岸市長をはじめとする来賓から同会への熱いメッセージが送られ、総会に華を添えました。また会場内に開かれた「勝山コーナー」では、さといもの煮ころがしや、おやきなど懐かしいふるさとの味を楽しむ参加者でにぎわい、懐かしい味に舌鼓を打ちながら、ふるさと「かつやま」の話に花を咲かせている様子でした。

また、11月13日には、大阪市都島区の「太閤園」において、関西勝山会総会が盛大に開催されました。総会は約100名の参加者でにぎわい、ふるさと勝山の昔話や今の勝山についての話で盛り上がりました。関西勝山会の総会は、次回で記念すべき80回目を迎えます。今回参加できなかったかたや、初めて参加しようと思われるかたなど、多数のご参加をお待ちしています。

※それぞれの会の活動内容については、市ホームページをご覧ください。(トップページ→「観光・遊ぶ・交流」→「ふれあい市民」)



生け花・絵画・書道などの作品が
並ぶ障害者作品展



手話コーラスで会場は一体に!

「表彰を受けられた市内のかたおよび施設はつぎのとおりです」
◎身体障害者自立更生者 知事表彰
片岸 治さん(平泉寺町)
◎更生援護功労者 県身体障害者福祉連合会長表彰
野尻佐太郎さん(遅羽町)
◎県バリアフリーのまちづくり賞
勝山市福祉健康センター
「すこやか」



川とまちづくりをテーマにしたパネルディスカッション

**障害者の自立と社会参加に理解を
「障害者ハートフル文化祭」で積極的にアピール**
県障害者社会促進センターなどが主催する「ハートフル文化祭」が12月3日〜4日の2日間、福祉健康センター「すこやか」で開かれました。この文化祭は、障害者の文化・芸術面における活動等の推進を図ることにより、障害者自身の自立促進と積極的な社会参加をめざし、その豊かな才能を一般県民に周知し、理解を深めることを目的として毎年県内各地で開催されており、今年で6回目を迎えます。
文化祭のステージ発表で行われた自立活動実践活動報告会では、県内の7グループが、社会参加促進、スポーツ振興などに関する実践活動を報告し、障害者の社会参加を積極的にアピールしました。そのほか、障害者作品展では絵画や書、手工芸などのすばらしい作品が訪れた市民らの目をひいていました。
また、初日の3日には、第51回県身体障害者福祉大会と第21回県心身障害児者福祉大会も行われ、社会参加に積極的な障害者や、障害者の更生援護に尽力されたかたへの表彰が行われました。
「表彰を受けられた市内のかたおよび施設はつぎのとおりです」



～水による都市再生～ 「まちづくりシンポジウム」開催

美しい水環境に恵まれた勝山の特性を生かしたまちづくりを考えるシンポジウムが11月16日、市民会館で開かれ、参加した約150人の市民は、基調講演やパネルディスカッションを通じて水を利用したこれからのまちづくりへの思いを深めました。

「都市再生は水から」と題した基調講演では、現在の勝山橋の設計や、市と住民との協働を進める市街地整備事業にかかわっている東京大学工学部の篠原修教授が全国各地で着手した整備の事例や勝山市内での調査を踏まえながら、「日本は歴史的に水と共に息づいている都市が多い。勝山は美しい水環境を利用した再生がぴったり合う」と述べ、この夏に完成した大清水整備のように、湧水や街中にあるたくさんの水路を利用していくことで、すばらしい都市再生ができることを力説しました。

また、「これからの川とまちづくり」をテーマにしたパネルディスカッションでは、山岸市長やNPOドラゴンリバー交流会理事・鳥山郁雄さん、浄土寺川のホタルを守る会会長・松山信裕さん、勝山青年会議所副理事長・中桐隆博さん、勝山地区壮年会会長・杉俣和之さんの5人のパネリストが、昔と現在の川と人々のかわりや水環境に対する熱い思いを述べ、九頭竜川の水量不足による環境への影響やごみ投棄の問題などが真剣に話し合われました。